

ソーシャルワークにおけるリシリエンシー要素 (resiliency factor)

- 相互関連要因としての健全な家族関係及び他者との親密な関係の要素に関して -

社会福祉法人山根会・関東学院大学大学院 文学研究科社会学専攻 扇谷秀樹 (0084)

キーワード：リシリエンシー要素、相互関連要因、健全な家族関係及び他者との親密な関係

研究目的

ソーシャルワークにおけるリシリエンシー要素 (resiliency factor) としての保護要因 (protective factor) は、内的要因 (personality factor) と相互関連要因 (interpersonal factor) で構成される (Norman, 2000)。相互関連要因 (interpersonal factor) の概念は、本人と他者との関係において展開する要因である。複雑な社会環境において、人は一人で生きてゆくことは困難である。そこで自己と他者を取り結ぶ関係に着目する必要がある。それらに関係する因子は、リシリエンシーを形成し、かつ高める要因になると思われる。

すでに、拙者発表 (2009、2010a、2010b) では、リシリエンシーの概念と基本的思考方法、リシリエンシー要素としてのセルフ・エフィカシー (Self Efficacy：自己効力) 等を取り上げ、さらに本自由研究報告要旨の執筆時点 (2011.6.5.) では、やはり内的要因としてのセルフ・エスティーム (self esteem：自尊感情) を 2011 年のソーシャルワーク学会第 28 回大会 (川崎医療福祉大学) にて発表予定であり、リシリエンシーの保護要因としての内的要因とそのメカニズムについての研究を進めてきた。

今回の発表では、リシリエンシーを構成する保護要因のうち相互関連要因の一つである「健全な家族関係及び他者との親密な関係」に着目し、リシリエンシーにおける保護要因のメカニズム上の意義について考察したい。

2. 研究の視点および方法

填補は、『不足をうめおぎなうこと。欠損をうめたすこと』という定義である (広辞苑より)。リシリエンシーにおける危険要因 (risk factor) とは、何らかの原因によってリシリエンシーの保護要因 (protective factor) が欠如ないし不足している状態である (拙者発表 2009)。リシリエンシーに立つソーシャルワークの支援・援助の営みは、まさに「填補」の行為に他ならない。補填対象のうち、相互関連要因の内容を補填するソーシャルワークの意義と見解を明らかにし、リシリエンシーの予防的機能の視点に着目する。

なお、研究の方法としては、引き続き文献・資料等を用いた研究を進める。本研究はソーシャルワーク実践理論に対する新視点としてのリシリエンシー概念導入の試み (理論的研究) の段階にあることに留意したい。

倫理的配慮

基本的立場は、日本社会福祉学会の研究倫理指針に基づき、配慮を行う。

本研究は文献検索による研究が主体となることから、特定のクライアントに関する個人情報はない。引用ないし参考文献については、その出典及び引用箇所を明示することにより、研究報告者の見解との対比が容易にアクセス可能な環境に努める。本研究で用いる参考文献は、自由研究報告当日に配布するハンドアウトにその詳細を示すので、参照されたい

研究結果： 填補対象としての相互関連要因に関するリシリエンシー要因-健全な家族関係及び他者との親密な関係 (positive family or other intimate environment) に関して-

Elaine Norman(2000)が示した枠組みによれば、健全な家族関係及び他者との親密な関係は、リシリエンシー要因うち相互関連要因に含まれることが示されている。この前提のうえで下記の研究結果を示したい。

- 1 . リシリエンシー要素填補が必要なクライアントのうち、家族関係に関して一人の大人との密接な関わりを持つことが重要であることが指摘されている (National Network for Family Resiliency, 1993)。
- 2 . 家族関係をはじめ他者との人間関係を親密に取り結び、コミュニケーションをとることが、リシリエンシーの促進要因になるといくつかの研究により指摘されている (例えばWalsh & Crosser : 2000)。
- 3 . これらは積極的なケアの関係と密接に関係し、親密な関係とネットワークを取り結ぶことによって、社会資源へのアクセス等の好条件をもたらし、リシリエンシーを高める結果になると思われる。
- 4 . このような関係は、人に安心感を与え、より安定した状態でリシリエンシーを促進ができるものであると推察される。

また臨床面においては、家族レジリエンスの家族支援の臨床的応用の試みが提示されている (得津 , 2003) ように、支援対象そのものを家族に向け、専門職による支援が、リシリエンシー要素としての家族レジリエンスの増強に貢献しているデータが示されていることも、注目に値するものと考えられる。

リシリエンシー要素における保護要因のうち、相互関連要因の填補対象として不可欠であり、この点を意識した予防的ソーシャルワーク実践展開の重要性を指摘したい。